

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 4月 5日

事業所名 マザーズ城東

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		十分なスペースを確保している。 活動ごとに空間を分けている。	
	2 職員の配置数は適切である	○		コンプライアンス委員会を設置しており、 人員配置を含め法令遵守に則り運営をして いる。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		・教室内は、視覚支援などによりバリアフ リー化されている。	2階のテナントであるため、階段の上 り下りが生じる。「保護者と一緒に上 り下りをする」と児童と約束した り、見送りの際は下りる様子を見守 ったりして安全に配慮していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		毎日朝礼、終礼、勉強会を行っている。そ の中で日々問題点を挙げて、解決策を話し 合っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートを実施し、全職員がその結果を 確認することができて業務改善に繋げ ている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで毎回公表している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価は未実施だが前向きに検討し たい。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		朝の勉強会や全体会議での研修で職員の資 質向上を図っている。今後は外部講師を招 く機会を増やすなど、より研修の質を向上 させていきたい。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		児発管が適切な手順で作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		事業所として使用してはいないが、契 約時に病院などで行った結果を参考に させていただいている。 公認心理師もいるため今後WSICな どのツールの使用も検討していきたい。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		メソッド委員会が組織されており、教室の 枠を超えてチームを組み、会議等で協力し て立案している。 児発管も含むチーム、全社員でプログラム を作成、改善している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		プログラムを繰り返す場合も曜日などを考 慮して工夫している。 同じ内容でも改善を重ねてバリエーション を増やす努力をしている。 ライフスキルでは、会議をふまえて毎回児 発必ずデータを更新している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇には地域交流など普段できない活 動にも取り組んでいる。	現状の長期休暇中の療育活動は、時間 もあるため他教室で使われている土曜 プログラムの使用を検討する。また、 長期休暇用のプログラムも作成してい きたい。

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 4月 5日

事業所名 マザーズ城東

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		児発管が中心になって、活動時間や余暇の時間に取り組めることを考えて作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼時に当日の療育内容を全職員で共有して確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼を行いその日に合ったことを共有して業務に繋がっている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		bridge（連絡アプリ）への記入や朝礼・終礼時に記録している。今後は、より客観的で正確な記載を心がけたい。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		最低限、6か月に一度は児発管がモニタリングを行い、その後全職員と話し合っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		プログラムはガイドラインを参照して作成している。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		教室長や児発管が「ふさわしい者」として参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		学校から毎月予定表をもらって確認している。緊急時には直接電話連絡等をして解決を図っている。送迎時に話が十分にはできる教員もいるため、必要に応じて電話連絡等を今後は行っていく。	
	22	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		児発管が移行支援会議などに積極的に参加し、教室に持ち帰って全職員に情報共有を行っている。	
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			
	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		代表者が研修を受けて全職員に共有している。	
	25	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		平日のみの開所のため、関わる機会を作りづらいが、長期休みなどで行っていきたい。
	26	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○		代表者が参加して、後に会議でほかの職員に共有している。	
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		bridgeにて来所時の様子を伝え、保護者と共有している。送迎時に直接丁寧に話をしている。	
28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		2/18に他教室と合同でペアトレを実施した。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 4月 5日

事業所名 マザーズ城東

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	29	○		契約時にていねいに説明している。	
	30	○		悩みを共有して保護者の気持ちに寄り添えるよう心掛けている。	
	31	○		コロナの影響で全員参加は叶わなかったが、ペアトレやウォークラリーを実施して保護者同士のつながりが作れるよう支援している。	
	32	○		ご意見箱の設置している。 日々の送迎時の保護者との会話を増やしていつでも対応できるよう取り組んでいる。	
	33	○		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	
	34	○		個人情報に十分注意している	
	35	○		障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	
	36		○		開かれた運営を図るために、利用者の友達を誘ったり外部の方を招待してりしたが、なかなか実現できていない。今後も積極的に声掛けを続ける。
非常時等の対応	37	○		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	
	38	○		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	避難訓練を行った際は、写真を使って保護者へも情報共有を行って、災害時の対応について明確な共通理解を図る。
	39	○		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	
	40	○		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	
	41	○		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	
	42	○		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	